

「心に移りゆくよしなし事をそこはかたなく書き作れば…」

光陰矢の如し

校長の内田です。

校長室の机に向かい、「あら、セミの声が今年初めて聞こえた。」と思ったのが、忘れもしない8月1日。もしかしたら、もう少し前から鳴いていたのに気づかなかったのかもしれませんが。そして次に聞こえてきたのが、虫の声。「あら？いつの間にかセミからコオロギの鳴き声に変わっている…」そう思ったのはたぶん9月上旬。そのときすでにセミの鳴き声を聞いた日から1ヶ月以上たってるし（驚）。そんなこんなしているうちに事務室前には「ハロウィーン」の飾りつけが。まだハロウィーンには1ヶ月近くある。と思ったら、もうクリスマスの飾りつけ。

気が付けば4ヶ月近くもたっているのはびっくり！！この4ヶ月何をしていたんだろう。新型コロナウイルス感染防止だとか、登校時間や授業時間のこと、遅れていた学校説明会もあったし、なんとしてもやりたかった文化祭も…。この調子で言ったら、来週には年末が来てそうで怖い。「楽しい時間はあっという間に過ぎる」とはよく言うけど、楽しかったかどうかは微妙です（笑）。



たんです。あなたの子さんを助け、これから埋葬される息子さんの元に戻るんですよ。」

これでこの動画は終わりです。この文章を読んで、どう思ったでしょうか？何を思ったでしょうか？
たぶん人それぞれ…。

私はこう思いました。

「人は誰もがそれぞれの事情を抱えて生きているということ。安易に人のことを判断してはいけない。」
それが正しいか、正しくないかはわかりません。どんな状態でも相手を思いやることは必要です。それがいい人間関係を作る事にもなるように思います。

初任の教員だったころ、生徒が悪いことをすると頭ごなしに怒ってた（叱ってたではありません）ような気がします。それが違うと気が付いたのは2校目。まず、叱るより先に、「どうしたの？」と聞くようになりました。何かをするときは、必ず理由がある。それがたとえ屁理屈であっても。ちゃんと聞いて、それが違うと思ってから叱ってもいい遅くはない。理由も考えもなくやった時にはそれがダメだ、誤りだと気づかせればいい。校長になった今も同じスタンスです。

きょう
今日はここまでです。